

ホースを器用に操り、自分で水浴びするハナ子



誕生会でハナ子が食べた飼育スタッフ特製のオカラケーキ



動物園に来て間もないころのハナ子。当時の広報紙には「体重260キロで、大相撲名古屋場所優勝した高見山より100キロも重い」と紹介されています



# ありがとう、ハナ子

動物園の人気者 ハナ子の44年を振り返って

昭和47年7月10日、市垂熱帯動物園(現九十九島動物園)に、生後11カ月のかわいいインドゾウがタイからやって来ました。前年に初代ゾウで人気者だった岳子が急死し、新たなゾウの導入に奔走していた動物園にとっては待望の二代目ゾウで、名前は「ハナ子」と名付けました。

タイからの移動には飛行機とフェリーを使用し、3日間の長旅でしたが、到着後には青草と好物のリンゴをたっぷり食べ、6時間の睡眠を取るときは、いびきをかいていたとの記録も残っています。

持ち前の愛嬌の良さから、すぐに動物園のアイドル的な存在になったハナ子。「佐世保市民なら知らない人はいない」といわれるほど、長い間、多くの皆さんに親しまれました。

国内で唯一、鼻を使い、自分でホースを持って水浴びするゾウとして、時には動物園を紹介する本の表紙を飾ったり、テレビで特集されたりするなど、本市の知名度向上にも大きく貢献してくれました。来園月である7月には、毎年、市民の皆さんと一緒に誕生会を行い、スイカや特製のケーキをプレゼントしてハナ子の成長をお祝いしてきました。このように、誰からも愛されるハナ子でしたが、年を重ねるにつれて頑固な性格になり、飼育スタッフへの好き嫌いが激しくなる面も出てきました。

それでも大好きな飼育スタッフには後ろをついて回り、足を上げて触ってもらおうと催促したり、展示場内に飼育スタッフが数人いると、必ず真ん中に割って入り、自分を中心ということをアピールしてきたりするなど、甘えん坊な性格はそのままでした。40代になると、体のさまざまな箇所が衰えが見え始めてきました。足が衰えてからは、エサのオカラにセラチンやグルコサミンを混ぜた特製のオカラ団子を与えて足の状態維持に努めたり、冬の乾燥している時期には肌のひび割れにオリーブ油を塗って保湿を行ったりし、足裏の病気にかかったときには、治療が1年に及ぶこともありました。

そんな中でも元氣な姿を入園者に見せ続け、昨年は全国ネットのテレビに出演し、器用に水浴びする姿を披露してくれました。

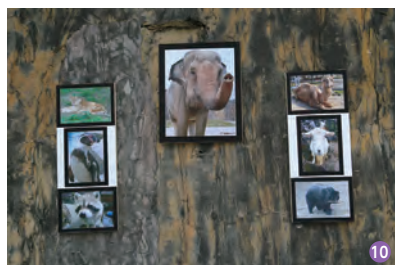
しかし、本年9月14日、ハナ子は45年の生涯に幕を閉じました。同日の早朝に飼育担当者が室内で倒れているハナ子を見出し、飼育員や獣医師などが力を尽くして介抱しましたが、元氣を取り戻すことはできませんでした。

ハナ子は最後まで優しい目をしていました。甘えん坊で、愛嬌のあったハナ子の眼差しは、空から私たちを見守るときも、きっと愛わらないと思いません。ハナ子、佐世保での44年間、本当にありがとう。ゆっくり休んでください。

●九十九島動物園 ☎28・0011

## ハナ子のお別れ会 ・森さらら動物園慰霊祭

9月24日(土) 森さららゾウ展示場  
①「園の人気者として多くの皆さんを笑顔にしてくれてありがとう」と感謝の言葉を述べる朝長市長②「天国でも幸せに暮らしてください」とお別れの言葉を述べる世知原保育園の中川果歩ちゃん③「言葉が通じなくても分かり合えるようになった」と振り返り、いつものあいさつ「ハナちゃん、また明日ね」でお別れした飼育担当の林田茜さん④献花する園児たち⑤お別れ会に集まった多くの皆さん⑥ハナ子に贈った感謝状



⑦⑧⑨ 献花台にはたくさんの花や果物などが供えられ、数多くのメッセージが寄せられました  
⑩ これまでの1年間に亡くなった動物たちの写真が飾られた慰霊祭の会場  
⑪ ハナ子の寝室では思い出の動画が上映され、多くの花が飾られました

